

主張

統一地方選挙を前に

地方自治を考える

この四月に戦後九回目の統一地方選挙を迎える。戦前、内務省管轄の官選知事に象徴される、中央集権的な地方自治制度は、終戦の大改革により、現在の民主的な地方自治制度に生まれかわった。しかし、その制度は市民の「強い意志」によって生みだされたものではなく、連合軍からの一方的な命令によって与えられたものであった。そのため法律体系は近代的ではあるが、旧来の因襲が残っている市民には十分に理解し得るものではなかった。

三〇年代後半から、四〇年代に突入すると、高度成長政策などにより、経済的に余裕のある、いわゆる中間意識層が増大し、「政治を身近なもの」と考える人が増えてきた。

しかし、そういう情況を前にして、「自治」というものの抱えている大きな負担——すなわち、そのため費す労力、費用、手続などを含め地方自治を維持、発展させて行くこと

が、いかに難かしく、時間のかかるものであるかという現実を政治に携る者たるがふれようとなかった。

そのため、地域住民の側からは、地方自治とは市民の権利のみを主張するもの、権利を拡大するものという風潮が強くなった。公書訴訟に示されるように、自らの生命、権利を守る手段として地方自治をとらえるのではなく、近所に精薄な施設が作られると、美観上よくない、というような全くお話しにならない住民エゴまでが「自治」という大義でまかり通っている。

また政治の側からは、一部の政党が「地方自治＝民主主義」という大義名分だけを振り回したために、イデオロギー対立が先行していった。本来、地方自治、地方政治にはイデオロギーの先行は必要のないものである。地域住民の生活に最も必要な施策を構じて行くのが地方自治、地方政治の意義であって、中央の「政治的対決」がそのまま持ち込まれ、不毛のイデオロギー対決をしている姿は、地方自治の理想像ではない。

われわれ、青年もこれらの政治問題を回避してはならない。この春の統一地方選挙を機会に、最も身近な政治の一つである地方自治についてもう一度考え直してみよう。



友愛の灯は消さず

この三月七日は、「友愛」の創立会長のご遺徳を偲び、友愛運動の原点を顧みたい。

故鳩山一郎先生は、昭和二八年、友愛青年同志会（当時）を創立以来、三四年に逝去され

るまで会長として運動の先頭に立たれた。

人間の価値は、棺をおおうてはじめて定まると言わわれている

われわれは、いま七十六年にわたる先生の生涯を思いうかべながら、その偉大な一人の人間の死が、不滅のひかりをはな

われわれは言

つて、かがやいていることを、実感する。

炳に投げられた巨大な薪は、無数の火の粉をあげて燃え、その火は次々に新しい薪に燃えうり、いまや、全国で燃えさかっている。軽井沢と尾道に進められている友愛山荘の完成をまたずなくなられたが、われわれは、先生によつて点ぜられた「友愛」の火を、「人間」のあたゝかさを、すべての人々に伝えなければならぬとともに実踐しなければならない。

われわれは、いま、ふかいかなしみの中で、それを誓う。



故内閣鳩山一郎会長と鳩山先生を弔み、「友愛の歌」を合唱する
機関紙第七二号

明日を築く
知識と技術
鹿島出版会 東京都港区赤坂6-5-13

对外経済協力大系

△本巻10巻/別巻2巻△
鹿島平和研究所編

- | | |
|--------------------|--------|
| 1 経済協力の理念と發展 | 一、九〇〇円 |
| 2 低開発地域の諸問題 | 一、六〇〇円 |
| 3 経済協力の形態 | 一、六〇〇円 |
| 4 多数国間の経済協力 | 一、四〇〇円 |
| 5 日本の経済協力 | 一、六〇〇円 |
| 6 主要先進諸国の経済協力 | 二、五〇〇円 |
| 7 アジアに対する経済協力 | 一、三〇〇円 |
| 8 アジアにおける地域協力 | 一、六〇〇円 |
| 9 中近東・アフリカに対する経済協力 | 一、六〇〇円 |
| 10 中南米に対する経済協力 | 一、六〇〇円 |

- 別巻1 重要資料集 一、八〇〇円
別巻2 経済協力業務便覧・関係法令基本文書集 一、三〇〇円

新たな構想のもとに、
全思想体系を集成した決定版

カーデンホーフ!

全9巻完結！ A5判各1,000円

